【資料２】　学習資料　　　　　　　　壬申の乱

645年に大化の改新を行った中大兄皇子（天智天皇）は、弟にあたる大海人皇子にをることを申し出ました。しかし、皇子はそれを辞退し、都を離れて吉野（奈良県南部の山間地）に移り住みます。

「皇子さま！　天皇がなくなられました！」

「なに！　兄上がなくなったか！」

「はい！　大友皇子さまは、亡き天皇の墓を造るために人々を集めると称して、人々に武器をもたせているようです。さらに吉野に食糧を運ぶことを妨害しているとの情報もあります。」

672年6月24日、大友皇子が兵を集めていることを知った大海人皇子は、わずかなおともをつれて、吉野を逃れて自分の土地がある（岐阜県）に向かいました。

地方（三重県）に入り、鈴鹿山脈を越えたころから伊勢のらも一行を迎え入れ

その数は多くなりました。そして皇子の軍はどしゃぶりの雨の中、三重郡へと到着し、

小屋を１棟焼いて暖をとっています。

6月26日、大海人皇子は、郡の川のほとりで雲の間から現われた太陽（）を仰ぎみて目をつむり、何かをつぶやきました。

「皇子さま、何をお祈りなさいましたか？」

「　　　　　　　①　　　　　　」

朝明に入ろうとするころ、味方の兵3000人が（岐阜県関ヶ原町）を完全にふさいだことを伝えられ、大海人皇子は大変喜びました。

郡家に到着した大海人皇子は、軍の指揮をとらせるために息子を不破へつかわしました。また、使いを送って東国の軍をおこさせました。

その後、桑名に向かった一行は、6月26日桑名郡家に泊まり、翌27日には不破に移り、前線で指揮をとっています。

　＊当時の史料（日本書紀）を参考に物語風に

アレンジし作成しました。

31